

会議録

会議名	令和3年度第1回青少年問題協議会専門委員会		
事務局（担当課）	児童青少年課		
開催日時	令和3年11月9日（火）午前10時～午前11時		
開催場所	桜並集会所 集会室A		
出席者	委員	黒須委員、浅野委員、金井委員、後藤委員、小山委員、八木委員、鈴木委員、大貫委員、大内委員	
	その他	欠席：佐藤委員、倉持委員	
	事務局	鈴木児童青少年課長、前田児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 委員長の選出について</p> <p>(2) 副委員長の選出について</p> <p>(3) 専門委員会による調査、協議のテーマについて</p> <p>3 閉 会</p>		
提出資料	<p>○ 令和3年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会 次第</p> <p>資料1 小金井市青少年問題協議会専門委員会委員名簿</p> <p>資料2 今後のスケジュール（案）</p> <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都区市町村青少年問題協議会調査結果一覧（令和元年度）、平成元年以降に実施した青少年問題協議会の意見具申等の概要</li> <li>・ 審議テーマ決定のための参考資料集（キーワード、内閣府子供若者育成支援推進大綱、東京都子供若者計画、OECDレポート他） （当日机上配布）</li> <li>・ この一年のあゆみ（市内児童館4館 児童生青少年課）</li> </ul>		
会議結果	<p>○ 委員長は浅野委員が互選により選出された。</p> <p>○ 副委員長は推薦をうけ委員長が指名し、金井委員が選出された。</p> <p>○ 今期の研究テーマについては、次回も引き続き検討することとした。</p>		

鈴木児童青少年課長	<p>本日、佐藤委員から御欠席の御連絡をいただいているほか、まだお見えになられていない方もいらっしゃいますけども、定刻になりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>会議の充足数を上回っておりますので、定刻過ぎましたので、始めさせていただきますと思います。</p> <p>第1回ということで、委員長の選出、副委員長の選出までは事務局で進めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>事務局のほうからお願いします。</p>
前田児童青少年係長	<p>おはようございます。児童青少年課の前田と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>議題に入る前に、本日の配付物を先に確認させていただきたいと思います。事前に送付したものが、本日の次第と、両面で資料1、資料2となっている一枚物。それとホチキスどめの参考が2つです。東京都区市町村青少年問題協議会調査結果一覧というものと、子どもを取り巻くキーワードというのが1枚目になっているもの。</p> <p>本日、席次のところにピンク色の冊子を1枚置かせていただきました。こちらが、児童館の去年度の1年をまとめたものになっております。資料の不足はございませんでしょうか。確認は以上です。</p>
鈴木児童青少年課長	<p>それでは、議題に入ります前に、9月の協議会本体で一度自己紹介をさせていただいているかと存じますけれども、本日まで時間も空いていたこととございますので、初めてこの場でお会いする方もいらっしゃるかと存じます。</p> <p>大変恐縮ではございますが、簡単で結構ですので、一言だけ自己紹介のほう、お願いできればと思います。</p>
黒須委員	<p>それでは、黒須委員から順にお願いします。</p> <p>小金井市子供会育成連合会の三小・緑小ブロックの代表をしています黒須と申します。よろしく願いいたします。</p>
金井委員	<p>緑中学校の校長の金井と申します。本年4月に着任いたしました。前任は清瀬市の中学校だったんですけれども、まだまだ小金井市のごことはよく分かりません。どうぞよろしく願いいたします。</p>
小山委員	<p>おはようございます。ナンバー6の、小金井市社会福祉協議会から参りました小山と申します。社会福祉協議会では副会長をしております。よろしく願いいたします。</p>

鈴木委員	<p>皆様おはようございます。ナンバー8の鈴木と申します。私は北多摩保護司会より選出されております。貫井南町在住です。</p> <p>ふだんは子どもとの関わり合いはあまり多くないですが、何かのお役に立ちたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
大貫委員	<p>ナンバー10の大貫でございます。東京都多摩府中保健所生活環境課長をしております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
大内委員	<p>東京保護観察所立川支部の大内と申します。今年度から小金井市の担当をさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
八木委員	<p>7番です。民生委員児童委員、主任児童委員をさせていただいております八木尚子と申します。よろしく願いします。</p>
後藤委員	<p>5番のPTA連合会からの出向の後藤と申します。私、娘が今、緑中学校の1年生で、金井先生、お世話になっております。</p> <p>緑小学校でPTA会長を3年、副会長を1年やらせていただいて、現在は、緑小学校はコミュニティースクールという形になりまして、コミュニティースクールの委員会の会長をやらせていただいております。八木委員が同じコミュニティースクール委員会のメンバーで、大変心強いです。</p> <p>私、PTAは長いんですけども、出向は初めてなので、勉強させていただきながら、お力になればと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
浅野委員	<p>3番の浅野と申します。小金井第一小学校の校長を務めております。小金井市立小学校校長会からこちらに出させていただいております。よろしく願いします。</p>
鈴木児童青少年課長	<p>ありがとうございます。児童青少年課長、鈴木と申します。改めましてよろしく願いいたします。</p>
前田児童青少年係長	<p>改めまして、児童青少年課の児童青少年係長をしております前田と申します。こちらの青少年問題協議会の事務局を担当しておりますので、何かありましたらお気軽にお申し付けいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
鈴木児童青少年課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題に入りまして、委員長の選出、副委員長の選出でございます。条例及び規則上は、特に互選であるとか、どの役職の方がつかれるというような規定はございませんので、慣例といたしまして、互選という形で決めさせていただいております。</p>

大内委員 鈴木児童青 少年課長	互選の方法については、御意見がございますでしょうか。 指名推選でいかがでしょうか。 指名推選というお声がけがございました。指名推選ということで、皆さん、よろしいでしょうか。
鈴木児童青 少年課長 大内委員	<p style="text-align: center;">（「異議なし」の声あり）</p> <p>ありがとうございます。それでは、指名推選ということですので、どなたか推薦をお願いできればと思います。</p> <p>推薦ということで、第一小学校の浅野先生をお願いしたいと思いません。</p>
鈴木児童青 少年課長	<p>子どもたちや保護者に、日頃、最も接していらっしゃるの先生方ですし、アンケートなどの調査も学校経由でお願いしていると思います。以前も小学校の校長先生が委員長でしたので、浅野校長先生に委員長をお願いして、緑中の金井校長先生が副委員長としてサポートしていただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」の声あり）</p>
鈴木児童青 少年課長	ただいま、浅野先生というお声がけがございました。浅野先生、委員長ということでよろしいでしょうか。
浅野委員長	はい、よろしくお願いたします。
鈴木児童青 少年課長	<p>ありがとうございます。よろしくお願いたします。</p> <p>続きまして、副委員長の選出がございました。先ほど金井先生という御発言がございました。浅野委員長、いかがでしょうか。</p>
浅野委員長	アンケート調査の実施など、前回同様行っていくと思われしますので、そういったときには中学校の校長先生にサポートしていただけると大変ありがたく思います。前回も小金井第一中学校の木下先生にお願いしていましたので、今回は金井先生にお願いできれば幸いです。よろしくお願します。
金井副委員 長	分かりました。よろしくお願いたします。
鈴木児童青 少年課長	ありがとうございます。
	<p>それでは、今期の専門委員会委員長は浅野委員、副委員長に金井委員ということでお願いたしたいと思えます。</p> <p>それでは、席の移動をお願いしたいと思います。委員長と副委員長に御挨拶を一言ずつお願いたしたいと思えますので、この後、委員長から議題を進めていただければと思えます。よろしくお願いたします。</p>

<p>浅野委員長</p>	<p>それでは、失礼いたします。委員長を拝命いたしました、小金井第一小学校校長の浅野と申します。改めまして、よろしくお願いいたします。</p> <p>前回も委員長を務めさせていただいております、そのときには、前回の青少年問題協議会でお配りされたと思いますが、「コロナ禍だからこそ 子どもの思いをきいていますか？」というリーフレットの作成に携わってまいりました。この前段として、令和元年の10月に子どもの声を聞く、子どもたちは今どんなことを考えて、このコロナ禍において生活しているのか、子どもの権利の視点からその実態を探るといった調査を市内の全小学校4年生から6年生、全中学校の1年生から3年生までにアンケート調査をいたしました。その結果を事務局で非常にきれいにまとめていただいたのが、この「子どもの思いをきいていますか？」というリーフレットです。</p> <p>これをお読みいただきますと、小金井市内の子どもたちがどんなことを日頃思っているのか、あるいは自己肯定感がどうなのか、それから、悩みはどういうふうに解決しようとしているのかといったことが分かりやすく記されております。これを各所に配付したところです。</p> <p>今回もそういったことにつながる取組を行っていくと思いますので、また皆様に御協力をよろしくお願いいたしたいと考えます。よろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
<p>金井副委員長</p>	<p>副委員長を仰せつかりました金井です。よろしくお願いいたします。先ほども申し上げましたように、私、こちらの小金井市に参りましてまだ半年というところです。まだまだ分からないことがたくさんありまして、今、浅野委員長からお話ありましたけども、正直なところよく分かりません。大変申し訳ありません。皆様方からまたいろいろ教えていただきながら、御協力いただきながら、務めさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>それでは、議題の3です。</p> <p>専門委員会による調査、協議のテーマについてお諮り、御相談をしてまいりたいと考えます。</p> <p>9月8日に青少年問題協議会、第1回がございましたけれども、それ以降も御意見を事務局で預かる旨のお話が出ていたと思います。本日は協議会で出された意見も踏まえて、今の子どもたちの状況や皆さ</p>

前田 児童青  
少年係長

んが関わっていらっしゃる団体等での状況など、報告を兼ねて、さらに御意見を出していただきまして、次回に向けて調査や協議の方向性を絞っていくということにしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

ちなみに、事務局では今後の日程などはどのように予定されておりますでしょうか。

資料2、名簿の裏側を御覧いただければと思います。

専門委員会としては、次回、12月頃を予定しております。来年の2月末までに、今日を入れて合計3回程度行い、そこまでにテーマと調査方法、アンケート調査でしたら、その項目の案といったものを決定していただき、専門委員会の提案として3月の本体会議、第2回目と書いてあるもので、3月末を予定しておりますが、こちらに委員長から御報告いただくような形を取ればと思っております。

なお、アンケート調査の場合につきましては、3月の本体会議でテーマを御承認いただいた後、ほかの本体会議の委員の方たちの御意見も踏まえて、専門委員会で新年度6月頃までにアンケートの原案を作成し、7月頃、もしアンケートを実施するという形であれば学校経由で、そういった形の流れをと思っております。そのほかの調査方法でも、大体のスケジュール感は変わらないかなと思っております。

そのためには、3月の本体協議会で案をお示しできればという形で、現在、第2回を12月という形でお諮り、御提示をさせていただいているところです。審議の進み具合によっては、回数ですとかを縮小したり、逆に増やしたりということも想定はしております。

もし、3月の本体会議第2回目までにアンケートの内容や研究テーマが決まらないということであれば、その後、本体会議の皆様には書面にてその内容の御承認をしていただくということも可能と考えておりますので、この辺のスケジュール感は審議の進み具合によりけりということと考えていただければと思います。

(2)の専門委員会の予定、上の全体スケジュールから抜粋というか、イメージしたものになりますが、本日は研究審議テーマについて意見出しをということで委員長から御発言があったかと思っております。上のスケジュール感で行くと、12月の第2回ときにはその内容を決定し、第3回で調査方法を決定できれば、3月の本体会議に間に合うかなと。第4回目のときに調査内容、項目を本体会議の意見も踏まえ

<p>浅野委員長</p>	<p>て決定し、その後、事務局で調査をさせていただくので少し空くんですけれども、調査結果が出てきたところで第5回目、調査結果を分析していただき、これを2回ぐらい行いながら、今年度の調査研究をした結果、どういったものを啓発していくか、提言していくかということをもとめていければというイメージであります。</p> <p>以上です。</p> <p>今御説明いただいたとおり、非常に長丁場になっていくと思います。前は、会議に当たる日が緊急事態宣言下にあったこともありまして、何回か会議が見送りなり、それから書面でやり取りするなりといったこともありました。今後、そういうことがないことを願っていきいたいところですが、先ほどお話ありましたとおり、今回と次回においてテーマや調査方法について協議を行い、年明けからはその具体的な聞き方、アンケート等について話し合っていくというイメージを共有していただければと思います。</p> <p>今日までに、専門委員会の御意見があれば、事務局で集約をしていただきたいという話が、7月の協議会本体でもありましたけれども、事務局から報告はございますか。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局です。</p> <p>本体会議でもお知らせしました御意見のお預かりですが、御出席いただいた方は御承知のとおり、本体会議の中では特段御意見が出ず、その後のお預かりという形ですが、参考の横型のほう、子どもを取り巻く問題のキーワードという資料の一番下に書かせていただいた1件が、提出がございました。</p> <p>こちらは専門委員にもなっている黒須委員から中で、コロナ禍でのタブレットやスマホの利用時間が増えたことによる影響ということで、お預かりをさせていただきました。</p> <p>もし、この意見についてでも、黒須委員のほうで補足がありましたら、お願いしたいと思います。</p>
<p>黒須委員</p>	<p>コロナ禍なので、GIGAスクール構想が4年か5年かけて、本当はゆっくりやっていくというのが、急速に1年もかかからないで進んじゃったという中で、その中で子どもの戸惑いとか親の戸惑いとか、そういうのというのは現実問題、小金井市はどうなんだろうというふうに思っていたんですけども、送られてきた資料のOECD政策対応、そこに書いてある大きな項目、「子供、外出禁止と精神衛生の問題」と</p>

前田 児童青  
少年係長

いうのと、「脆弱な世帯の子供は、家庭学習で最も大きな障害にぶつかる」というのと、「コロナウイルスとデジタル環境における子供への影響」とか、本当に今の現実問題、こういうことなんだなというのを、これを読んで、ああ、そうだなというふうに思ったので、じゃあこれ、小金井市の現実の子どもたちはどうなのと思ったので、これを中心にして、小金井市の子どもたちの現状をつかむというのはどうかなと思ったんですけれども。

ありがとうございます。今御紹介いただいた参考資料について補足をさせていただければと思います。

今日、参考で2種類送らせていただいています、1つは、東京都内でほかの自治体が青少年問題協議会でどういったものを研究されたり審議されたりしているのかというものが分かればと思ひまして、コロナ前のものを御用意させていただきました。令和2年度は今、東京都のほうで集計中に出せなかったという事情もあるんですが、コロナで大体の自治体が開催を延期したり中止したり、思うように審議が進んでいない状況もありましたので、令和元年度でお示しをさせていただいております。

それぞれ、やられていることが違うなというところと、このテーマを小金井にもという参考にしていただければと思ひています。

一番最終面では、本体の資料としても御提出させていただいていますが、平成元年度から令和3年の6月、先ほど委員長から御紹介いただいたリーフレットまでの間に、小金井市の青少年問題協議会で取り上げたテーマ等々について御報告をさせていただく内容になっております。過去にやったからいいだろうというのも違うかなと思ひています。例えば、先ほど黒須委員がおっしゃっていたような、スマートフォン、タブレットの利用とかというのは、10年、15年前にはほとんどなかった、携帯電話という形での持ち歩きだったりとか、インターネットも家に置いてあるパソコンからとか、そういったところだったりするので、子どもを取り巻く状況というのは、年々変わってきているかなとは思ひます。

それと、横書きの子どもを取り巻くキーワードです。これは私のほうで、何となくどんな話題がいいかなと思ひながら、それぞれの権利条例だったり、コロナ禍だったり、青少年の問題として定義されていることだったりというキーワード出しをしたものなので、ここから選



べということではありません。どこかのイメージに刺さればいいなというところですね。

2 ページ目以降が、内閣府が出しております、子供・若者育成支援推進大綱というものがあまして、令和3年の3月に改正をされておりましたので概要版だけ載せさせていただきました。資料が必要であれば、ホームページで、「内閣府 子供・若者 大綱」とかで探せばすぐ出てくるかなと思うんですけども、日本国としての子供・若者を取り巻く環境について、国レベルで見たところ、こういう問題があるよねというようなことが記載されています。

4 ページ目、施策の推進の体制としては、国としては、こういうことを進めていくよということで、指標としてこういうものを使っているよというのが載っています。

一枚ペラにはなってしまうんですが、次をめぐっていただくと、東京都の子供・若者計画第2期の概要というものも参考で載せさせていただきます。こちら、東京都のほうで、子供・若者のための施策の推進を計画立てているものの、5年の計画が1回終わって、第2期が令和2年4月に策定されたものの概要になります。東京都としては、こういった形で進めていくよというものの紹介です。

黒須委員のほうから御紹介いただきました縦書きのものです。7 ページ、こちらは経済協力開発機構、OECDのレポートとして、ホームページ掲載があったものから抜粋をしてきました。本当は日本のレポートが何かあればと思って探していたんですけども、まだそこまでのレポート、信用できるようなレポートとして発見することができなかったもので、国際レベルにはなるんですけども、コロナ禍の各国の現状という形で、こういった視点もあるよという御紹介です。皆さん、コロナ禍ということ意識されるだろうなと思ひまして、その参考として掲載をさせていただきました。長いので、読んでいただこうと思っていなかったんですが、読んでいただいてありがとうございます。

それと、16 ページから、こちらにつきましては、国立青少年教育振興機構というところが長年かけてやっているもの、あとは国レベルでやっている調査、研究とか統計、そういったものをまとめてくれているサイト、リンク集がありましたので、こういったものからの、青少年の動向とか経年比較、あとは規模感、日本規模ではこうだけ、

浅野委員長

小金井に直すと実はちょっと違う結果が出てくるよとか、そういった比較で使えるかなと思ひまして、抜粋をさせていただいたところです。ざっくりですが、資料の説明は以上です。

黒須委員もありがとうございました。

委員長にお返しします。

ありがとうございます。

様々、御説明ありましたけれども、この後、本日御出席の皆様、今回、市として取り扱っていくテーマに関する御意見をいただいきまして、今日、それを決定するというのではなくて、また、次回以降につなげていきたいと考えております。

まず、私のほうから先に切り口で話をさせていただきますと、先ほど黒須委員からも説明がありましたけれども、コロナ禍において、子どもたちの生活にどういった影響が及ぼされていくのかというところは喫緊の課題だと考えます。これは、今感染者数が減っているからということではなくて、これもいつまた、どういった状況になるかわかりませんので、緊急事態宣言下から続いている子どもたちのその影響という状況については、注視していくということは、学校としても喫緊の課題です。現在、小金井市の小中学校においては、コロナ禍だから、あるいはそれ明けだからという原因は特定できないにしても、やはり不登校傾向のお子さんが増えているということは実態として間違いありません。先日、生活指導主任会がありまして、各学校の生活指導を進めている先生方が集まった中でも情報交換したという話を聞きますと、やはり何らかの理由で不登校傾向、あるいは全く学校に行けていないというお子さんが、残念ながら増えている現状です。それは他地区もそうでしょうけれども、本市においてもそういったことが見られます。

本校におきましても、それぞれの学年にやはりそういったお子さんがいます。その対応策としては、まず、もちろん担任と子ども本人、または保護者の方がつながっていくということは途切らさず続けていきますし、そこにスクールカウンセラーが入って話をつないでいくということもやっています。

それから、もくせい教室、要するに不登校傾向のお子さんのための市としての居場所であるもくせい教室が、今度、東京学芸大学の中に移設されました。新たにきれいな施設として整備されたということも

ありまして、そちらに通いたい、あるいは通っているというお子さんもいます。

また、本校でこの10月から始めた取組としましては、要するに、学校に来て昇降口で大泣きして教室に入れないという1年生がいます。そういった子どもたちが、ワンクッション置くと教室に入れるということがあります。これまでは保健室で対応したり、あるいは別室で対応したりしていたのですが、そのための部屋を作ったらどうか、あるいは、そこに関わる人たちも何らか募集してできないかというところで始めたのがステップという取組です。今年の10月から、PTA室が2つあったのですが、その1つをこちらに借りまして、朝来てぐずっているお子さんを、2時間目の終わりまでという限定で、10時半までには落ち着かせて教室に行かせるということをやっています。それを本校の学校支援コーディネーターの富澤さんという方がいますので、この富澤さんを中心に数名の方が毎日来てくださって、つないでいます。実際、今1人、2人、連日のように利用している1年生のお子さんがいます。保護者の方も付き添ってくるのですが、本当に保護者にべったりくっついて離れられないとか、あるいは、昇降口でうずくまって動けなくなってしまうということがあります。そういったお子さんをちょっと落ち着かせる、それで教室につなぐということを、今、行い始めたところです。

そんなことも情報提供させていただきながら、あと、皆さんからも、それぞれのお立場で、小金井市の子どもたちに関わるどんなことが課題であり、こういったことをこの会で話し合っていたらよいかという御意見をいただきたいと思います。

それでは、順番に回していきたいと思いますので、まず、こちらから順番に行きたいと思います。金井先生からよろしいですか。

金井副委員長

すみません、ちょっと趣旨からずれる可能性もあるんですけども、私、事前にいただいた資料を見ていた中で一番驚いたのが、子供・若者育成支援推進大綱の3番目の「施策の推進体制」の中にある「家族・親族」のところで、親から愛されている子ども、そういうふう感じているのは73.7%という数字に非常に驚きました。驚きというか衝撃的でした。

これ、裏を返せば、そう思っていない子が26%、4分の1以上であると。本校の場合、大体1クラス三十六、七人というところなんで

すけども、その中に、9人から10人が、親から愛されていないなんていうふうに思っているというふうにして考えると、非常にこれ、大変なことだなと思ひまして、やっぱり、何だかんだいっても、子どもたちにとって家庭・家族が安らぎの場でなければいけないかと思う中で、4分の1を超える子どもたちがこういうふうを感じているというところ、ここに大きな衝撃を受けました。

先ほどからもお話がありましたけれども、コロナ禍における子どもたちへの様々な影響ですとか、不登校ですとか、そういったところの直接的な原因にはなっていないかもしれないんですけども、子どもたちにとっては、こういったような感覚でいるということがかなり背景として大きな部分を占めているのではないかなというふうに感じています。学校として何ができるかというとなかなか難しいところではあるんですけども、とにかくやっぱり子供たちの気持ちをきちんとくめるような状態、そういった体制を組んでいかなければならないんだなということを感じているところです。

そんなところです。

浅野委員長

ありがとうございます。前回作成したリーフレットでも、「子どもの声をきいていますか？」というタイトルでやったのですよね。先生がおっしゃったように、子どもたちが、果たして家庭の中でどれだけ率直に親に相談したり、あるいは助けてもらったりという思いをもっているかというところも数値として表れています。先生もおっしゃったとおり、必ずしもそれが高い数値とは言い切れないところもあるというのは実態としてありました。

それでは、続けて後藤委員から順番に、また御意見をお願いいたします。

後藤委員

私ですと、保護者の立場で申し上げて、先ほど不登校の話が浅野先生からもありましたけども、確かにちょっと多いなと感じております。特にうちの娘が、昨年、小6がコロナの1年目の年で、休校があり、学校が始まったのが事実上2学期ぐらいからという年で、中1になって来られなくなった、あの子も最近来てないんだという話を娘から聞くことがあります。

1つは、小6のときに学校行事とかがかなり飛んでしまったので、私、今までもPTA会長として6年生を見ていて、それに比べて私の娘の代が、リーダーシップとかがうまく育たなかったなかというの

非常に残念で、特に6年生になると1年生を入学式でお世話して、教室に連れていき、会場に連れていき、一緒に入場しというので、自分が小学校の代表になるんだという気持ちがあったと思うんですけども、小学校の入学式も簡易的に行うことになり、1年生と触れあったのも、結局夏休みが明けてからぐらいでしたので、何かちょっと、リーダーシップの柱が通っていないなという感じが、個人的にはこの世代には感じております。

行政からは、コロナのときは小1と小6、中1、中3という切り替わりの学年に関してはなるべく学校に来られるようにと非常に配慮していただいたんですけども、学校行事とか地域の行事で一旦リーダーシップを取るとかいうのは非常に大事な経験だったんだなというのを感じていまして、この前、緑中学校で文化発表会という大きなイベントがあって、それも拝見させていただいたんですけども、やっぱり3年生とかは立派なところなんですけれども、1年生はもうちょっと頑張れよと思うところもあったりしたんですが、そういう個人的な印象を持っております。

一方で、不登校の子たちが、友達のネットワークには結構入ってまして、先ほどICTの話がありましたけれども、使い方が難しいと思うんですが、LINEのグループが各クラスごととか学年ごととか、4月には小金井市緑中中1グループという大きなグループがあったんですが、それは自然消滅しちゃったみたいですが、その中には学校に来ていない子も入ってまして、結構活発にコミュニケーションしていて、友達がいないわけではなさそうというのを、見ていて思っております。子どもたちはたくましくICTを使っているなと思いました。その中で遊ぶ約束をして、まちの繁華街に行くかと思ったら小金井公園でみんなで自転車で集まってというのが、中1はかわいいなと思ったんですけども、集まって、三小と緑小の学校に行っていない子たちが初めて顔を見て、学校に来ていないのに、おまえたち、友達になってるじゃんみたいな、そういうたくましさもあったりして、そういうふうに関係をつなげているので、何か、学校行事と、子どもたちの間で自分たちでできているネットワーク、強さを引き出せるようなものがあると、イベントなり、行事なり、取組なりがあるといいなというふうに感じているところです。

あとは、学校の授業も今はGIGAスクールが始まって、確かに目

	<p>の心配はありますね。コンピューターの画面を見ている時間が長いので、目はどうかと思うんですけども、今までの授業だとグループワークとかをやっている、教室全体でも手を挙げないと答えられなかったものが、コンピューターだと、自分の意見をここに書き込めるんですよね。全体のクラスの掲示板みたいなのところに書き込めるので、おとなしくて物が言えなかった子たちがそういうところに物を書き込んで、みんなが意見を出せる環境になったというのはGIGAスクールの1つのよかった点かなと感じております。</p>
浅野委員長	<p>ざっくりばらんな感想なんですけれども、そういった実態を感じているというところです。</p>
	<p>ありがとうございました。</p>
八木委員	<p>それでは、続いて八木委員、お願いいたします。</p>
	<p>今回の研究のテーマということに絞って考えさせていただいたときに、やはりコロナという言葉は外せないかなと思っています。前回のリーフレットの調査のときには、まさかこれほど長くコロナの状況が続くとは思ってなくて、それが子どもたちや家庭にどういう状況が及ぼすかというところまで思いを馳せていないところで、今現在は、この2年、3年近く続く、まだまだ先が見えないというところで、御家庭や子どもたちがどういうことを心配しているかなとか、そういうところに目を当てたほうがいいかなという気がしています。</p> <p>1つには、後藤委員からもお話がありましたけれども、学校の行事、その他がほとんどできていないことに関して、子どもたちには大きな影響があり、それを心配している御家庭がたくさんあるということを感じています。</p> <p>例えば、5年生、6年生の宿泊授業、体験授業は全て中止となりましたし、1年生、2年生も初めて入った小学校で、友達の様子はマスクつきでしか見てなくて、御家庭と一緒に遊んでも、え、君はそんな顔していたんだねというような、そういう会話から入っていかねばならない状況が、これから先の子どもたちが大きくなったときにどういう影響があるのかという、資料のほうにもあるように、そのところを、多分御家庭の保護者の方も心配しているんじゃないかなということで、心配事ですか、そういうことをどう考えていますかというのを1つのテーマにするというのが1つ。</p> <p>もう一つは、コロナ禍でリモートとかそういうことが、新しい生き</p>

方といたしますか、新しい生活様式の中でこんな方法もあるよねということで社会は動き出していますが、そこで新たに見えてきた問題、黒須委員が言っていたように、家庭環境によって、リモートとかの環境がないところによって格差が非常に広がってきている。この格差は前からあったんですが、限られた環境の中でますますその格差が広がっている。若者の中では、今、「親ガチャ」なんていう言葉があって、生まれてきた家庭環境は選べない、これはガチャで引いて、その環境によって自分の将来は決まったようなものだねということを行っているようですが、今、GIGA構想とか、そういう環境の中でも、やはり整った家庭にあるお子さんたちの育ちは安心——安心とは言えませんが、安心だとしても、そうでない家庭においては、どうやって子どもたちの育ちを担保していくかということをここで研究したほうがいいかなという、考え方としては、今2つ考えています。

以上です。

ありがとうございました。

それでは、大内委員、お願いいたします。

東京保護観察所立川支部の大内です。

ICTのお話がありましたので、関連して述べさせていただきます。

保護観察の現場で働いていて、単独犯の子たちであれば、インターネットを使った犯罪に手を染めてしまうことが、多いとは言わないんですが、一定数出てきていると思います。

インターネット上で起こるトラブル、誹謗中傷であったり、また、児童ポルノやリベンジポルノといったことは、リアルで実際に起きていることよりも、場合によっては非常に被害が大きい場合があって、その子たちの人生を狂わせてしまうことも多くて、子どもたちが大人になったときに、できるだけ平和なインターネット世界が広がっているといいなと思っていて、実際、大人たちが正しいインターネットの使い方をできているかというと、現状、できていないというのは、インターネットの発展の速度に、インターネットとの正しい付き合い方の確立が追い付いていないことがあると思います。子どもたちに正しいネットリテラシーを身につけてもらうためにはどうしたらいいのかということをご調査をしていただいて、捉え直す必要があるのではないかなと考えている次第です。

ありがとうございます。

浅野委員長

大内委員

浅野委員長

大貫委員	<p>大貫委員、お願いいたします。</p> <p>保健所のほうでは、やはりコロナ禍における精神的・身体的な支障というものに対しては問題であると考えております。前回の本体会議でも紹介いたしましたが、様々な御相談があれば、もちろん、保健所としては対応いたしますが、御相談になる前に、皆様からいろいろお話をいただいた問題を啓発して、そうならないようにするというのが、一番よいのではないかと考えております。</p> <p>今、小さな不調から大きく全部つながっていくということでもありますので、お子さんたちの小さな不調を早期に見つけて、そして、それに対応できるような体制を取るための調査、そういったことをしていくのがよろしいのではないかと思います。</p> <p>以上です。</p>
浅野委員長	<p>ありがとうございます。</p>
鈴木委員	<p>では、続いて鈴木委員、お願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>テーマについて興味があるのは、先ほど来から出ていましたコロナ禍の状況です。それと、ポスト・コロナということで、コロナが終わった後の、コロナ禍とポスト・コロナで子どもたちの精神衛生の問題、それから健康問題、それが現状どうなるのかということと、要するに、どういうものが想定されるか。それに基づいて、誰がどういうふうになそれを解決していくかということに興味があります。</p> <p>それと、参考データということで資料を見ますと、5ページ、自殺、児童虐待、それからいじめ、不登校、これは16年から20年ぐらいのデータが出ていますが、20年、19年といいますと、コロナはまだ原因なのか分からない、かなり増えていますので、その辺がどういう形で解決されるかなということも興味があります。</p> <p>以上です。</p>
浅野委員長	<p>ありがとうございます。</p>
小山委員	<p>では、小山委員、お願いします。</p>
小山委員	<p>先ほど来、出ているような問題で、特に付け加えることはないんですけども、最近の報道では、コロナのショック、影響なのかどうか分かりませんが、子どもたちの自殺者が増えているという報道も聞いております。それから、先ほど来ありますように、不登校の問題についても興味があります。それから、我々も非常に戸惑いがあるんですけども、リモートによる生活の変化といいますか、いろいろ、</p>



家庭によっては電子機器の整備とか、いろんな面で格差があるし、あるいは、そういうものを操作していく上でのいろいろな差が出てきているということも聞いています。

私は、実際には自分の子どもというよりも、むしろ孫の話をいろいろ聞いたりしておりますけれども、確かに行事ができないとか、学校での子どもたちの生活に変化が出てきている。あるいは、給食のときは話をしちゃいけないんですか。楽しい給食のはずが、かなりきついといったことがあって、そういった面でいろいろ、先ほど来、お話に出てくるようにいろんな面で我慢があったというようなことを聞いております。

前回の調査のリーフレットを拝見しまして、大変参考になりました、これと、今出たような問題をもう少しリンクさせるというか、大変参考になるのは、ちょっと心配なことが、これを読みますとありまして、例えば、あなたは相談したいとき、誰かに相談していますか？という設問の結果ですけれども、したいけどできない、したいとは思わないというパーセンテージが随分多いなど。こういう状況の中で、どういうふうに悩みを解消しているのかなということを感じますし、それから、先ほどの自殺に関して言えば、自己肯定感ですけれども、自分のことを好きじゃないとか、あるいは、人に何か役に立ったり、自己有用感みたいなものがどうも持てない、なかなか持てない状況の中で、場合によっては自殺になってしまう、極端かもしれませんが、そういうことがあるかもしれません。

そういうことにつきまして、前回の調査とも何かうまくリンクさせるとかしながら、テーマを設定していったらどうかなということを感じました。

以上でございます。

浅野委員長

ありがとうございます。

では、最後に黒須委員、お願いいたします。

黒須委員

私は、最初に言ったように、OECDのレポートを中心に、小金井市はどうかというのを考えて比較したり、そういうことを調査していったらいいかなと思います。

以上です。

浅野委員長

ありがとうございました。

皆様から、ひととおりの御意見を頂戴しましたけれども、何か付け加

<p>前田児童青少年係長 浅野委員長 前田児童青少年係長</p>	<p>えて、あるいは言い落としてしまったようなことがありましたら、いかがでしょうか。</p> <p>事務局から。</p> <p>はい、どうぞ。</p> <p>事務局で補足をさせていただければと思います。</p> <p>小山委員から発言のありました前回のリーフレットの関係です。こちらのデータの基になっているものは、ちょうどコロナ直前というか、コロナ前のアンケート結果になっておりました。本来であれば、前期は子どもの権利から見た子どもの実態、権利条例を制定してから10年経ちましたので、その制定前に取ったアンケートと比較から、15年前と今と、どうなっているかを比較できたらいいよねというところがスタートになった設問となっております。</p> <p>その中で、御存じのとおりコロナが2020年3月から爆発的に増えてきて、それを踏まえない啓発もないだろうということで、急遽、コロナを踏まえた啓発内容に、前期の専門委員の皆様と協議をして整えてきたというのが、今回のまとめたリーフレットの成り立ちとなっております。</p> <p>なので、コロナ禍についてのアンケート結果がこの中に反映されているかということ、それはまだまだ違ったのかなというところがございますので、同じ設間で、例えば、今聞けばコロナ前に思ったことと、コロナ後、アフター・コロナで思ったことの比較ということには使えるかなと思います。</p> <p>あと、分析をする、調査の方法が変わってしまっていて、例年であれば、保護者が思っていることと、実際に子どもが感じていることにこれだけ差があるよとか、そういったアンケート形式を取ったりすることが多かったんですが、今回発行しているリーフレットにつきましては、子どもの権利10周年という記念の年でもあったので、学校の先生たちにすごくお願い、御協力をしていただいて、全校生徒に対してという形で、かなり大規模なアンケート調査をかけました。これを毎年できるかということ、大分、事務局の手間も大きくて、同じ規模での比較というのは難しいかなと思います。ただ、1年生、2年生とか、抽出して調査数を減らした形ということであれば、それほど差はないかなと思いますので、そういった形では、この調査結果を利用すること</p>
--	--

は可能かなと考えております。それが青少年問題協議会のリーフレットとしての補足です。

もう1個、補足としまして、この調査結果につきまして、市のほうでも先ほど小山委員から御紹介がありました、相談したいけどできない子がいるとか、自分のことを好きでない、自己肯定感の低い状況が見えるとか、そういったことを鑑みまして、今、学校のほうでもスクールカウンセラーとか、子供の声を拾いやすい人材、専門職の配置をしたりして、もちろん、学校の先生も話を聞いているところではあるんですけども、逆に、それで信頼している人からもし嫌なこととかをされた場合、相談先がなかろうなというところで、行政として、子ども相談室を開設しようとして今検討しております。子供の権利の救済機関として、子どもオンブズパーソンという制度設計を用いた形を検討し、来年度稼働に向けて今、調整を進めているところです。こちらに関しましては、表に出せるレベルまで検討が整いましたら、皆様にも適宜、こういったものを御紹介できればと思っておりますが、市のほうでもそういった、したいけどできない、相談ができなかったり、嫌なことをされたけど、どうするのと聞いた結果が、我慢すると答えた子とかも、実際のアンケートの中でもいましたので、そういった子たちが、具体的にはその子の個別救済というか、その子が解決と思える方向に伴走する人、一緒に解決策を考えるような人を設置しようという形で動いていますので、今お話できるところで情報提供させていただければと思いました。

以上です。

浅野委員長

今御説明ありましたとおり、このリーフレットにも書いてありますが、アンケート調査時期は令和元年の10月だったのですね。ですから、このときにはまだ全くといっていいほど、我が国はコロナには関係なかった。教育活動も普通に行われていましたし、この年は移動教室も林間学校も修学旅行も全部行っているのですよね。それが、年明けの1月以降、緊急事態宣言が発令されて、3月でしたか、1か月間、全然学校に来られなくなってしまったということがあって、修了式、卒業式だけやったというのがこの年です。

ですから、この結果を取りまとめていく中で、コロナ禍だからこそという方向に舵を切っていたというところがあったのですが、実際にアンケートを取ったのはそういう時期だったということですので、現

在とは全く違った状況だったということは、先ほどの委員の方々からお話がありましたとおりです。したがって、この調査項目等ももう一度吟味してやっていくことも必要かなというところは、お話をお聞きしながら思いました。

また、皆様から出された御意見、大体のところ、コロナ禍においての子どもたちの精神的な状況や、生活の実態がどうだったかということ。あるいは、それに対して家庭ではどのようなことを一緒に考えたり、あるいは心配したりしていたかといったところですね。そして、ネットによるものが、この状況の中でどういった影響を与えてきたのか、ネットリテラシーも含めて、そういったところが、大体皆様から出されてきたところを集約していきますとそんな状況かなと思うのです。何かそれに対しては、もうちょっとこういうことも加えていったらよいということがありましたら、ここで出していただきたいのですが、いかがでしょうか。

もちろん今日は皆様から最初の御意見をいただくという回でしたので、これはまた事務局でも持ち帰っていただきまして、次回、もう少し具体的にどういったテーマで、そして、どういったアンケートを実施していくかというところの協議をしていければと思います。よろしくお願いいたします。

前田児童青少年係長

事務局から、補足、いいですか。

浅野委員長

はい。

前田児童青少年係長

今いろいろ、調査すべきこと、したほうがいいんじゃないかということをお意見出しいただいたんですけれども、青少年問題協議会というのは、調査をして、結果、これでしたということをお世に出すだけが目的ではなくて、調査をした結果、こういうことが見えてきたので、こういうところを、例えば改善すると、青少年を取り巻く環境がよりよくなりますよというアドバイス、助言的なところを最終的に提言に持っていきたいというところがありますので、専門委員会としての持っていき方として、興味のあるところを調査する、もちろん構わないんですけれども、その先を見据えた形で、事務局でもどういった設問や調査方法がいいのかなというのを次回の会議までに検討していくという形で私は考えているんですが、そういった形でよろしいでしょうか。

浅野委員長 八木委員	<p>八木委員、お願いします。</p> <p>常々、民生委員児童委員のほうでは、このリーフレットの内容を見させていただいておまして、この調査の結果をどういうふうに現場へ反映していくかということについていつも検討しています。内容によりましては、民生委員のほうで勉強会を開いたり研究会を開いたりしているんですが、それはなかなか、ほかの御家庭とか皆さんへフィードバックするところまでは至っていません。ですので、今回このリーフレットを作った後に、それをこの青少年問題協議会としてどうしていくかということまでセットで何か考えられるといいなというふうには考えています。何か、勉強会をセットですとか、報告会というんですか、そういうものもできたりしたらいいかなと。それはまた本体のほうでお話しできればと思いますけれども、あればいいかなと思います。</p>
前田児童青少年係長	<p>事務局から補足、すみません。</p> <p>縦型の参考の一番裏のページに、令和元年度以降に実施した青少年問題協議会の具申等の概要ということで、今回、提示させていただいているものを御覧いただきたいんですが、平成20年より前は、調査をしました。その中から出てきた問題について、私たち、青少年問題協議会はどう考えますという提言をするための報告書、こういった形の報告書をまとめまして、子どもに関連する機関だったり、ホームページを使える年になってからはホームページ等を活用しながら啓発を行っていたところです。</p> <p>この方法だと、この冊子を送ったところしか見ないだろうというところで、本当に届けたいのは、子どもに一番近い家庭だろうと。この結果とかの提言内容についてというところで平成20年から新たな方策を探りまして、では、調査結果と提言内容について、報告書、活動報告書としてはまとめているんですけれども、それではなくてリーフレットという形で家庭に届けたらどうだろうということで、リーフレット型の啓発を始めて、ずっと継続をしているという状況になります。</p> <p>前回の、皆さんが出席いただいた9月の青少年問題協議会のときに、一応、成果物としての形は同じように保護者向けの啓発という形でリーフレットでの啓発を目指そうというところが議題として発言が座長からあり、その中身、調査テーマ、研究テーマにつきましては専門委員会に一任されているという形になりますので、一応、今指している</p>

最終的な形というのは、何かしら専門委員会で決めたテーマについて研究して、調査をした調査の分析をして、その結果を保護者向けにリーフレットの形でまとめていくという形が、今現在の本体会議で決まっている方向性になります。

ここで出てきて、例えば勉強会を開催するだとか、そういったことも専門委員会の意見として本体会議に今後出せないかという、出せないはないので、変えていくんだったらそういった形もできますが、現在の整理として、一応お話だけさせていただきます。

もう1点、民生児童委員のほうで青少年問題協議会のリーフレットを活用していただいているということで、ありがとうございます。今回のリーフレットも前回もそうなのですが、アンケートは25問ぐらい取っているんですね。ただ、リーフレットとかにまとめるのに、全部を入れ込むとごちゃごちゃし過ぎて言いたいことも伝わらないということで、掲載する設問数をすごく絞ってあります。皆さんのほうには、前回、本体会議のときだと思うんですが、今回のリーフレットについてのアンケート、調査報告書を青少年問題協議会の活動報告書と、ボリュームが結構あったので別冊という形にしていますが、お渡しをしているかと思います。なので、これはホームページにも掲載させていただいているんですが、リーフレットからだけ読み取れる物と、リーフレットではなく、それ以外、漏れてしまった問題からも読み取れるものはあるかなと思いますので、そういう意味では、リーフレットにあるから使える設問ではなくて、ほかの年代にもそれぞれ隠れている設問等々がありますので、経年比較でまとめることも可能かなと思います。

補足でした。

はい、ありがとうございます。

このリーフレットも、割と全家庭には配っているのですが、大体において、読んでほしい人は読まないというのが、小学校、中学校もそうですよね。実態として、こういったことを啓発したい方がスルーしてしまうというのが、残念ながら悲しい実態としてなきにしもあらずです。それでも、啓発を続けていくということは大切だと考えますし、学校でも、保護者会に来てほしい人ほど来ないというのがどうしてもあるのですが、それでも声かけをしていく、連絡をしていくということは続けていきますし、そういった意味でも、こういったリーフレッ

浅野委員長

黒須委員	<p>トの啓発を続けていくということは非常に大きな意味をもっているというふうに私も考えてございます。</p> <p>その他、何か御発言等はございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>先ほど八木委員が言われたように、やっぱりもらっただけじゃなくて、何かみんなで考えようよみたいな場所があったら、もっと身近な問題に親たちが考えてくれるかなと思いますので、何かそういう機会というか、これが出来上がってからそのままじゃなくて、そういう機会があったらいいのかなと。インターネットが使えるという時代だし、何かうまく発信できたらいいなと思いました。</p>
浅野委員長	<p>これについては、先ほど事務局からありましたけれども、要するに、青少年問題協議会の本体としてそういったことを検討していくことは可能なんですよ。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。</p> <p>まず、皆さんの任期が2年間なんですけど、7月始まりで2年後の6月までという形の任期の中で何かしら、途中で交代するような、4年かけた大きな調査もあり得るかなと思うんですけども、基本的には同じ方が同じものについて分析・調査し、活動した結果、こういうふうになりましたという活動報告を今までは残させていただいていたところなんです。</p> <p>今回、このリーフレットとか活動報告書の発行については、その期限の切れる2年後の6月発行、今年は間に合わなくて7月1日発行になってしまったんですけども、そういう形で、その任期が切れるときまでにそれを全て終わらせるスケジュール感で、今まで動いていました。</p> <p>もし、説明会とかを入れていくということになると、説明会の説明を青少年問題協議会でされるのであれば、事務局というよりは委員の皆様が説明するとか、そういう話になっていくんですけども、そういったことを考えると、今の任期の方たちがいる間におけるのであれば、今の任期の方たちが決定した内容で、説明会をするよ、何日にするよと決められるんですけど、そこの任期を超えた期間に説明会を設定するときには、新委員の皆様はその説明会をお願いしなければいけないので、そういう任期ずれによる、もしかしたら、それが受け入れられないかもしれないというところは、今私が考えた中では懸念はある</p>

浅野委員長	<p>かなと思います、基本的にはこういった形で提言をされるのか、活動報告会みたいな形で開催される附属機関もなくはないですし、可能かなと思います。その場合、このスケジュール感だとリーフレットの発行までが間に合わなくなるスケジュール感なので、もうちょっと詰めていろいろやっていかないとと思いますので、本当にそういう最終報告会みたいなものを開くということであれば、早めにスケジュール出し、本体会議への議事を済ませていただきたいかなと思います。</p> <p>なので、今期のスケジュール感で、もしそれを本体会議に上げるのであれば、今年度の3月、第2回の本体会議のときに、専門委員会としてはリーフレットとともに活動報告会を青少年問題協議会として開催したほうが良いと思いますみたいな形で、皆さんの意見が合うようであれば上げていただく必要があるかなと思います。</p> <p>スケジュール的な感じは以上です。</p> <p>そうしますと、また12月に第2回がありますので、その中でテーマ、アンケート並びに、今御提案いただいたことについても再度協議をしていくということによろしいですか。</p> <p>それでは、議題の3つの協議は以上といたします。</p> <p>事務局にお返しいたします。</p>
前田児童青少年係長	<p>その他として、今後の次回日程の事務連絡なんですけれども、先ほどの説明の中にもありましたとおり、年内に第2回目を開催させていただければと思っております。</p> <p>ただ、今回も案内と会場が急遽変更になりまして申し訳なかったんですが、なかなか会議室が取れない状況が続いております。決め打ちでの御案内になってしまうかなと思いますので、その点、御了承いただければと思います。</p> <p>日取りにつきましては、まだ専門委員長が決まっていなかったもので、専門委員長等々とも調節がついておらず、まだ決めておりません。早めに御連絡できればとは思っておりますので、御連絡をお待ちいただければと思います。</p> <p>次回の内容としては、先ほど御意見いただいたのがコロナ禍での状況としてOECDレポートを参考にしつつというところと、精神的な状況について、現状の調査をかけ、そこから見えてくることについて、今後の想定については調査できるような期間でもないかなと思っております。医師がいるとか、そういう専門的な調査というのは難しいの</p>



で、青少年問題協議会で取り組める調査方法としては、子ども自身から聞くアンケートだったり、その対象が保護者になるのか、年代は別にして、そういうアンケート項目か、それぞれの、もう既に出ている国とかの調査報告書とかを再度分析して、規模感での比較だったり、小金井に当てはめたらこうなりますよねというような事実の数字とかに基づいた分析というような、2パターンぐらいしかすべを持ち合わせておりませんので、そういった中でできるものという形で考えてはいきたいなと思っています。

なので、今後の想定というところまで青少年問題協議会の調査としてできるかという、ちょっと不安だなと思っています。御了承ください。

ほかに出ていたのが、家庭ではどうしたらいいのか不安に思っているんじゃないところ、今の説明と同じように、現状の分析、現状で感じていることについては調査が可能かなと思いますが、長期的な影響とか、漠然とした不安みたいなものについては、かなり設問とかを考えないと、調査結果として集約しづらかなと思っています。

ネットリテラシーについても御意見をいただいておりますので、この辺りについても調査、こういった設問だったらできるんじゃないかというものをざくばらんに出ささせていただいて、その中で方向性を1つに絞りつつ、本体会議に報告していけるような形を取ればと思っています。

次回までに私のほうでやるのは、そんな感じで大丈夫ですか。

ありがとうございます。

では、事務連絡は以上です。ありがとうございます。

ちょっと1つだけいいですか。すみません。

ちょっと気になっていることは、コロナ禍で生活困窮、仕事を失うとか、ひとり親家庭、就労が困難になった方とかがいますよね。非常に大事な食事という点で、地域、市内では子ども食堂とか、いろいろあるんでしょうけれども、今すぐ支援しなきゃいけないとか、個別に対応しなきゃいけないというケースがあると思うんですけども、そういったお子さんたちの食事と違って、学校とかはどういう対応をしているのか。

暮れに、社会福祉協議会としてはフードドライブみたいなものをやって年末に配ったり、私もそこに行ったりしたんですけども、やっ

小山委員

前田児童青少年係長	<p>ぱり、いらっしゃいますよね、子どもを育てている年代の方も。全部がお子さん持ちの家庭だけではないですけども、そういうお子さんたちって、生活困窮の家庭というのは、コロナの影響でも随分あるんじゃないかなと思っているんですよね。そういう子たちの対応、食事はどうしているのかなとちょっと気になったんですけども、そういう子ども食堂を紹介するとか、食品ロスの関係でどこから集めて何かやるのか、それとも、社会福祉協議会のようなところがフードドライブで配るとか、そういうことの対応ですかね。</p> <p>例えば、役所というか、公式に何か、そういう子たちの支援というか、それは何かあるのか、ないのか。ちょっと気になって。</p> <p>学校の対応の前に、市役所、行政としての対応について情報提供させていただければと思います。</p> <p>コロナ禍というところで、子ども食堂は、今、公設でやっているところはあります。全て民間の団体がやってくれていて、そこに対して助成金を出すという形を取っていますが、そういったところでも、コロナ禍で人を集めることがとにかく難しく、国からも都からも、大鍋で作ったものをみんなでつくくなと言われておりまして、開催が難しかったのがコロナ禍でございます。</p> <p>なので、コロナを含めない形での御紹介しかできないところが心苦しいんですが、今御案内いただいたようにフードドライブ、あとは子ども食堂もそうですね、そういった形で、いわゆる貧困層、貧困家庭における救済につきましては、各部署から、多くは子ども家庭支援センターというところが子どもの育ちだったり子育てについての一義的な相談窓口として、小金井市、設置していますので、要保護児童対策、虐待も含めた、非行とかも含めて、この子のこと、周りでの見守りが必要だよねというような子どもの情報についてはそこに一元化して集約できるように、小金井市では、まず、情報共有の仕組みが整っています。</p> <p>その中で、この家庭は明日も食べ物がなさそうだなみたいな緊急の場合だったり、長期的に見ると仕事が見つからないよねとか、優先順位を分けてにはなりますけれども、その方たちが餓死しないように、それぞれの御案内できる制度を、それぞれのタイミングで適宜御紹介、御案内、支援を行っているという状況です。</p> <p>その中には、学校の給食費だったり、例えば修学旅行に行くための</p>
-----------	--

	<p>積立金だったり、そういった学校生活でかかる、教科書とかは無料で出るんですけども、無料で出ない部分について援助を行う就学援助の制度もありまして、そういったものも、年度初めじゃないと申し込めないとか、そういうことはないの、適宜御案内をさせていただいて、その子の家庭が困らないように、様々な制度の組合せを、それぞれの人に合わせて行っているというところです。</p> <p>ただ、コロナ禍で訪問活動とかも一時期途切れてしまうところが正直ありまして、現状、どのぐらい埋もれてしまっているかについては、市役所のほうも皆さんからの情報をいただかないと、見つけられる目がないというか、そういうところは本当に課題の1つかなと思っておりますので、もし困っている方、それが、虐待とか目に見えるものでない場合でも、何か気になることがあったら、子ども家庭支援センターに御一報いただくと、本当に救われる子どもが増えるだろうなと思います。</p>
小山委員	<p>社会福祉協議会でも、生活困窮者の自立支援の相談窓口があって、ただ、役所の今のような窓口で情報を集約して、相互に連携を取って調査しながら、制度的に、生活保護から始まってと、いろいろあるでしょうから、そういうものと民間のものをつなげていくということをやうまくするといいいのかなという。あとは金銭面とかだと受験生チャレンジ事業もありますし、そういったものがあるので、そこにうまく使っていくと、よりいい支援内容が届くのかなと思います。</p>
八木委員	<p>すみません、お時間ないところ。そこにぜひ、民生委員、入れていただいて。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。本当にそうだと思います。</p>
八木委員	<p>民生委員は、正式名称は民生委員児童委員ということで動いておりますので、ちょっと市役所に相談に行くにはハードルが高いなというときとか、おっしゃるように、今はコロナ禍ですので、なかなか情報収集はできませんけれども、どうしたらいいか心配という人は、まず民生委員児童委員に相談してみたらの一言があっただけであれば、また連携ができるかなと思いますので、情報提供させていただきます。よろしくお願いします。</p>
浅野委員長	<p>では、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これもちまして、今年度第1回の小金井市青少年問題</p>

	<p>協議会専門委員会を終了といたします。皆様、御協力ありがとうございました。</p>
--	---

— 了 —